

浅草寺病院だより

2024年
【新年号】

2024年1月22日発行
社会福祉法人浅草寺病院
東京都台東区浅草2-30-17
☎ 03-3841-3330

理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



新年を迎えて

病院長 黒田 忠英

あけましておめでとうございます。2024年新しい年を迎えました。今年は天候も良く、晴れやかな気持ちで新年を迎えましたが、元旦から北陸地方に震度7の非常に大きな地震があり、大変なお正月になりました。東京でも大きな揺れを感じましたが、現地では現在も余震が続いており、被害も大きくなっています。北陸地方にお住まいの方、お知り合いがいいらっしゃる方など、今も不安で大変な思いをされていることと思います。一刻も早く落ち着いた日常生活が戻りますように、心より祈念いたしております。

医療の面においては、長年続いた“新型コロナウイルス感染症”も、大きな転換点を迎えたと思います。昨年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行したことに伴い、街中の人の動きはコロナ前に戻ったかのようです。浅草寺に初詣にいりしやった参詣者の方々も今年は非常に多く、海外の方も多く見受けられます。コロナ前同様に多くの笑顔がみられ、マスクなしでの会話が飛び交っており、コロナによって続いた非日常の4年間が終わり、コロナ前まで普通であった日常がようやく戻ってきたのだと感じました。

2019年に突然あらわれた“新型コロナウイルス”、感染力も非常に強く、致死的な感染症として、非常に恐ろしいウイルスであると感じたことが思い出されます。この4年間は新型コロナウイルスの一強時代、その他の感染症はインフルエンザですら、ほとんど姿を現さなかったように思います。しかし、昨年の秋頃から様々な感染症が日本、海外といるところなどで流行し、ここ数年見られなかったような感染拡大を起こしています。インフルエンザウイルスに始まり、咽頭結膜熱のアデノウイルス、溶連菌など多くの感染症の流行が見受けられます。“新型コロナウイルス”の一強時代が終わりを告げ、様々な感染症が群雄割拠する戦国乱世のようにも見えます。ある意味ではこれが普通の日常であったのかもしれませんが。

入院施設を持つ病院や、高齢者が多く集まる施設などでは、院内感染や感染の拡大を防ぐため、今後も十分な感染対策を継続していくことが必要だと思います。我々はこれからも様々な感染症と戦い、感染対策に気をつけていく必要があるかと思っています。

今年は震災、感染症と波乱の年明けではありましたが、辰(龍)は天高く昇る縁起の良い生き物とされており、辰年は十二支の中で最も縁起がいい年とされ運気が上昇していくとされています。辰(龍)は神話や伝説に出てくる空想上の生き物ですが、浅草寺は“金龍山”という山号が付けられており、金龍山浅草寺と言います。浅草寺の縁起によると観音様が隅田川で上がった時、天から金の鱗をもつ龍がおりてきて、観音様の示現を祝ったとされています。今年こそは辰(龍)が天高く昇るように、飛躍と安定の良い年になり、平和で落ち着いた一年になりますように祈念いたしております。

本年もどうかよろしく願い申し上げます。



一般病棟(地域包括ケア病床)は、在宅への生活支援の役割を担っているため、私たち看護師は在宅復帰を見据えた看護が求められます。

昨年 11 月初めに台東区の訪問看護師の仕事内容について学ぶ機会がありました。患者さまへの適切なコミュニケーションや効果的なケア方法を学ばせていただきました。

特に印象に残った事は、病院を受診する際に自分の症状を的確に伝えきれない患者さまに代わってケアマネージャーと訪問看護師が要点をまとめ、メモを持参させている事です。訪問看護師の細やかな気配りが信頼関係の確立に結びついており、生活面・医療面の指導や適切なケア提供につながっていると感じました。

看護を担う者として、訪問看護師との連携を強化し継続看護のため役立つ情報提供「看護サマリー」の内容の充実を図っていきたいと思います。



謹賀新年 ～過去を振り返り、未来を創る～

総務課

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

世界保健機関(WHO)が、事態は「パンデミックである。[新型コロナウイルス感染症COVID-19]」と宣言した2020年3月から4年の月日が経とうとしています。

このパンデミックは、世界中の人々に多大な影響を与え、私たちの生活や社会は、さまざまな点で大きな変化を余儀なくされました。しかし最近では、ワクチン接種や治療薬開発等の成果により、すこしずつではありますが、終息に向かっていることを肌で感じられるようになってきたのではないのでしょうか。

私たち病院職員も大変な困難に直面しましたが、地域住民の方々をはじめ、当院を応援いただける方々の支援、また国や台東区などの行政機関による援助により、この浅草の医療を支えるべく、幅広い領域で研鑽を積み、日々従事することができています。この場をお借りして、心から御礼申し上げます。

さて、話は大きくなってはしまいますが、このような苦難を乗り越え、未来を創るためには、どのようなことに目を向けるべきなのでしょう。個人的な意見とはなりますが、やはり「過去から学ぶ」大切さをあらためて見つめ直す必要があると考えます。未曾有の犠牲を払ったこのパンデミックからより良い未来を創るためには、辛いことではありませんが、悲惨な過去に目を背けるのではなく、その出来事や経験を活かし、未来を描くことなくしては、私たちは成長することも幸せになることも叶わないと思うからです。

過去を客観的に振り返ることで、より冷静に私たちの強みや弱み、成功体験や失敗体験を理解することができますし、また感情(恐怖や不安)に流されないようにすることも客観的な判断をすることができ、同じ失敗を繰り返す可能性も抑制できます。もちろん過去に囚われ、現在の成長や未来への希望を蔑ろにすることは良くはありません。何事にも適切なバランスを保つことが必要で、そこに気づきがあれば、個人単位では人生をより豊かに、社会単位では、より成熟した社会を実現することが出来るのではないのでしょうか。

多くの教訓を残したこの数年間をありきたりではありますが、決して忘れることなく、この浅草の医療を支える立場として、より良い未来を創るために共に歩んでいくことができればと思います。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。